

《説得力のある批評文を書く 文例》

三年 組 番 氏名

スマートフォンのマナー

私は、駅で多くの利用者にスマートフォンのマナーを訴えることができるのは、Bのポスターだと考える。

Bには動物を使った楽しいイラストが使われており、幅広い年齢の利用者の目を引くことができる。また、全体が淡い色合いで統一されていることもあり、マナーの向上を訴えていながら強制されている感じがあまりしないところも好印象だ。ただ、親しみやすいマナーポスターは今まで数多く作られている。このポスターにはそれらと比較してどのような特色があるのだろうか。

Bの「楽しいけれど 歩きスマホはしない」というキャッチコピーからは、スマホを操作する時としない時を切り替えるのは、あくまでも使用者の意思で、また使用者の責任であるということが伝わってくる。気になって調べてみたところ、「平成二十五年から二十九年の過去五年間に一九九人が救急搬送されています」（東京消防庁ウェブサイト）「歩きスマホ等に係る事故に注意！」閲覧日〇年〇月〇日」とある。自分の意思で決めることができなければ、大げがにつながってしまう。またイラストの使用は、日本語がわからない人もアピールできる。

それに対して、Aのポスターは四か国語で直接メッセージを訴えかけるものとなっていて。また、ポスター全体も目立つ黄色が全面に使われている。Bのポスターよりも危険性を強く呼びかける効果があるものの、命令されているようで利用者には窮屈に感じられることだろう。

現在のところ、日本には歩きスマホを罰する法律はない。だからこそ、スマホの利用者一人一人が公共の場所でのマナーを守り、自分と周囲の人の安全を守ることが求められるのではないか。このような点から、Bのポスターが有効だといえる。